

## 第2回 常呂川減災対策協議会 議事要旨

日時：平成28年12月21日（水）13:30～15:20

会場：北見市 端野総合支所 2階 大会議室

構成員：北見市市長（代理：副市長）、訓子府町長、置戸町（代理：副町長）、北海道オホーツク振興局長（代理：副局長）、網走地方気象台長、陸上自衛隊第6普通科連隊長、北海道警察北見方面本部警備課長（代理：災害係長）、北見地区消防組合消防長、網走開発建設部長

### 《議事内容》

平成28年8月の出水概要

幹事会の報告

水害時の対応に係る市町村向け啓発ビデオ

「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく常呂川の減災に関する取組方針（案）について

- ・主な課題と取組内容について
- ・北海道緊急治水対策プロジェクトについて
- ・浸水ナビの説明について
- ・フォローアップについて

### 《首長等からの主な意見》

#### 【今夏の大雨対応等に関して】

（北見市）

- ・網走開建のほか関係機関からの各種情報の提供、開発局の排水ポンプ車による内水排除応援により浸水被害の軽減が図られ感謝。
- ・住民避難について、躊躇なく避難勧告等を発令すべきであるが、夜間での発令には住民理解を含め、苦慮した部分もあった。
- ・今回の気象は異常であったのか又は近年の気象が変化しているのかなど長期予報に関する情報提供をしてほしい。

（訓子府町）

- ・訓子府町管内には水位観測所がないため、上流の置戸水位観測所と下流の上常呂水位観測所のデータを監視し、さらには町職員が直接川岸に行って水位状況を確認しながら防災対応を行った。

(置戸町)

- ・置戸常元の雨量観測所では8月1か月の降水量が550mmを記録し、今後もこのような降雨も考えられることから、今期の降雨は異常であったではなく、これが普通だという認識が必要と感じた。

(北見地区消防)

- ・今期出水では、住民の避難を実施してきたが常呂川の氾濫の影響で浸水域から1名の死者が出たことが非常に残念である。救助に向かったが、既になくなっていった。人命救助を最優先として考えてきたが、救助活動に甘さがあったのか又はほかにやるべき事があるのかなど考えさせられた。

(北海道警察北見方面本部)

- ・今期出水では、住民の避難活動や交通規制、救助を行った。常呂川の氾濫の影響で浸水域から1名の死者が出たことは本当に残念である。住民が防災に対する危機意識が必要と感じた。

(陸上自衛隊第6普通科連隊)

- ・関係機関の協力のもと、自衛隊としての活動することが出来たことに感謝。

(網走地方气象台)

- ・ここ数年のデータを見ても短時間に降る大雨が増えている。また、アメダスの極値更新も多くなっている。「地球温暖化が原因」とするのには、もっと長い期間を見なくてはならないが、近年、北海道では経験したことのないような本州並の大雨が発生しており、経験したことのない被害が発生することもあると認識する必要がある。

(北海道オホーツク振興局)

- ・関係機関からの各種情報の提供、また支援や協力して対応して頂いたことに感謝。
- ・今期の出水を受けて、各種情報をいち早く収集し、共有し、そして住民への防災情報の発信をどのように行っていくのが大事だと感じている。
- ・災害申請箇所の新定が完了し、2月から順次復旧作業を進めてまいります。また土砂堆積や流木の除去、樹木伐採などについては予算を確保し順次行っているところでございます。

## 【減災に向けた今後の取組方針について】

### (北見市)

- ・洪水を安全に流すための対策や危機管理型のハード対策を計画的に実施してほしい。
- ・住民の避難情報に関しては、普段から住民に避難情報の意味など周知していく必要がある。
- ・本協議会も防災意識の向上として大切なことだが、住民の水防災への理解と意識向上などの防災教育などをしっかりしていくことが必要である

### (訓子府町)

- ・こうして流域の関係機関が一同に集まって、減災に対する協議会を行っていることが非常に大切である。
- ・住民への避難情報は、出来るだけ早い段階で発出することが望ましいが、今回のような連続台風などにより、連発して発出すると住民の危機意識が薄れていくおそれがある。こうした情報発信も考えていく必要がある。
- ・当地域は、災害が起きない安全な地域という意識が高く、常呂川から氾濫するなど想定もしていないのが実態である。こうした住民の意識を変えていくことが必要で、防災学習や訓練を徹底してやっていかなければならない。
- ・想定最大規模の浸水想定区域では、町内市街部のほぼ全域が浸水することとなり、現行のハザードマップが全く機能していないため、現在、避難経路や避難場所などを見直し新たなハザードマップを作成しているところである。
- ・広域的な避難行動など、市町を越えて設定するなどの防災の取り組みが必要だと感じている
- ・近年の雨は、部分的に集中して降るケースも増えてきているため、より迅速かつ確実な情報を得るため、町内へのアメダスの設置や住民の避難判断が出来る水位計を設置してほしい。
- ・この協議会を有効なものとして、今後も防災に関する課題等について議論し、具体的な取り組みなどとりまとめていく必要がある。

### (置戸町)

- ・常呂川本川だけでなく、中小規模の河川氾濫が著しいというのも実態である。従って、本川と支川(国・道・市町)が一体となって整備していく必要がある。
- ・現在、想定最大規模の浸水想定区域をもとに、ハザードマップを作成しているところである。我々の町も全域にわたって浸水してしまうことから、浸水しない高台に避難することを想定しているが、現状として避難出来る施設がなく、避難所の設定に苦慮しているところである。

(北見地区消防)

- ・水防活動に必要な、部隊の装備品などを充実していく必要がある。
- ・こうした協議会を通じて、関係機関との連携・共有をしっかりとやっていくことが大切である。

(北海道警察北見方面本部)

- ・住民が災害等に関して危機意識をちゃんと持っていただければ、被災は少なくなる。また部隊の二次被害のリスクも少なくなる。
- ・住民はなかなか逃げないもので、こうした住民をいかに逃がすかが大切であり、背中を後押しできるような防災啓発の活動が必要である。

(陸上自衛隊第6普通科連隊)

- ・いざ災害が起きたときのために、平時からこうした協議会等で顔を見る環境で、集まり議論していくことが最も大事だと考えており、いざというときの緊急時の防災情報の共有や収集・提供など、迅速な活動につながる。
- ・8月28日、防災対策等の支援することを目的に、オホーツク管内の2市8町と防災協定を締結したところである。こうした協定に基づき、有事の際には活動支援していきたい。
- ・早め早めにリエゾン派遣を実施し情報収集・提供を行いながら、応援や支援など協力していきたい。

(網走地方气象台)

- ・各自治体で作成されているハザードマップ等を活用し、日頃から啓発活動を行っていくことが必要である。
- ・減災についてはハード対策・ソフト対策、共に重要であり、气象台では特にソフト対策の面で情報の改善を図る。現在、警報等については文字情報であるが、平成29年度の出水期を目途に警戒を要する期間や危険度等について視覚的に分かりやすい情報を提供する。また、気象情報に用いるキーワードについて、危機感が伝わるような的確な表現を用いる。
- ・気象に関する情報提供等について、24時間受け付けている。

(北海道オホーツク振興局)

- ・現在道では、河道内樹木伐採などの河川維持管理のあり方について検討しているところです。
- ・常呂川水系の水位周知河川(無加川、訓子府川、小町川)における想定最大規模浸水想定区域図は、平成28年度に前倒しで作成する予定です。また水位周知河

- 川以外の河川についても、簡易的な手法により3年間を目途に作成する予定です。
- ・今後、道々の交通規制のあり方などどう考えていくか関係機関と一体となって進めていくことが必要である。
  - ・今回、浸水想定区域図が公表されたが、今後の豪雨が想定最大規模の雨が計画規模の雨が住民および自治体は判断することは難しい。  
避難判断水位や降雨量などの気象状況を総合的に判断し、避難に関する情報を市町村から住民等に周知することが重要であることから、国や道から地域の状況に応じた市町村への助言も必要と考えます。
  - ・先述の浸水想定区域図では、市街地の多くが浸水する自治体もある。
  - ・新たな避難所や避難経路の確保については、大洪水だけでなく、中小規模洪水も勘案しながら、設定していくことが望ましいと考えております。  
場合によっては広域的な避難場所の設定なども考えられることから、この協議会を活用しながら、関係機関で協力し、進めていくことも必要です。

#### 《フォローアップについて》

- ・今後出水期前に協議会を開催し、各機関の取組状況の確認や取組の内容などについて協議していく。